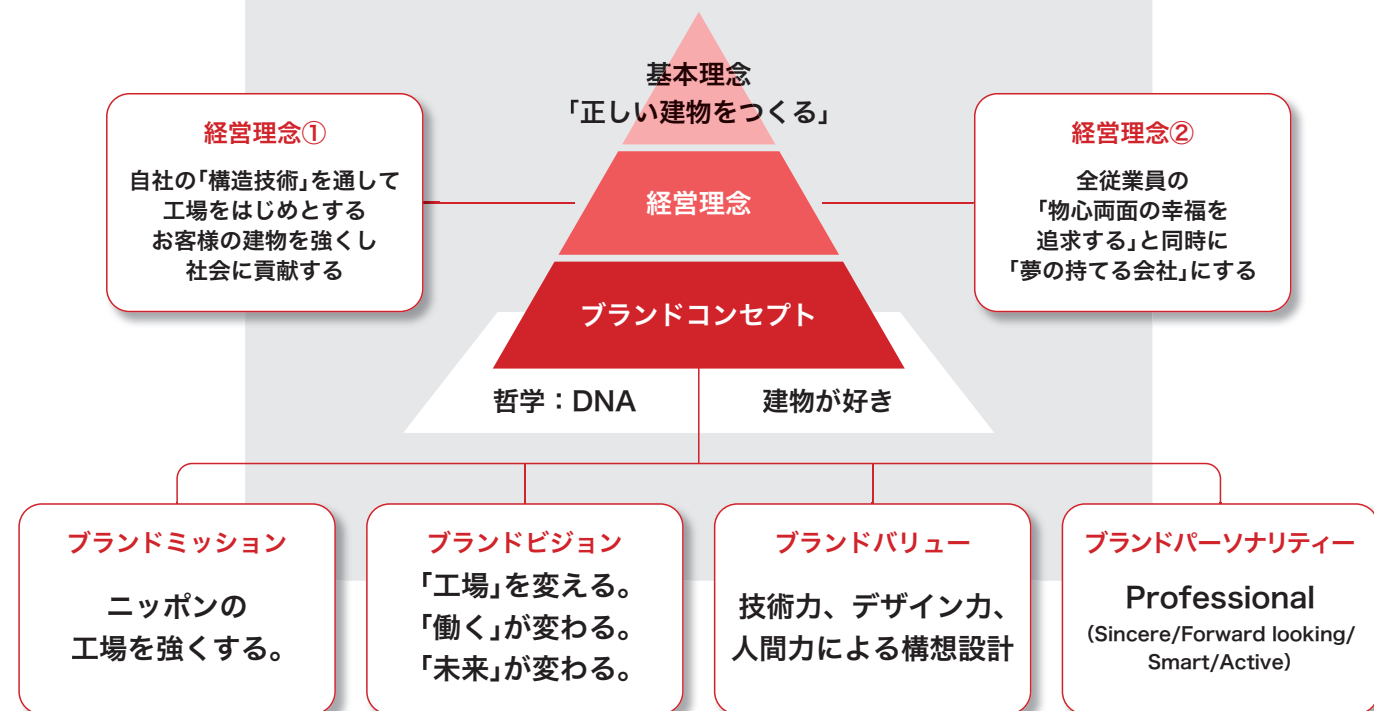


私たちが大切にしていること



各グループ会社所在地



正しい建物をつくる ヨシザワグループのあゆみ

2026年8月発行

発行 株式会社ヨシザワ建築構造設計
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-13-6 浜町ビル3F TEL 03-5641-4430

編集・制作 株式会社出版文化社 東京・日本橋茅場町 大阪・新大阪 名古屋・金

印刷・製本 株式会社ホクシン

© 2026 YOSHIZAWA-KENCHIKU-KOZO-SEKKEI Co., Ltd. Printed in Japan

History of the Yoshizawa Group

ヨシザワグループのあゆみ

正しい 建物を つくる

 ニッポンの工場を強くする。
yoshizawa group



株式会社ヨシザワ建築構造設計
代表取締役

米田圭介

ご挨拶

建物を強くすることへのこだわり

2003年に私が中途入社した当時、弊社は社員約20名で埼玉県を中心に活動する組織でした。それから20余年、現在は社員約145名を擁し、東京、京都、そしてベトナムのダナンへと拠点を広げるまでに成長いたしました。

私自身、現場監督としてキャリアをスタートし、東京での営業、2011年の東日本大震災を契機とした全国への奔走、そして各グループ拠点の立ち上げと、第二創業期以降の激動の時代を会社と共に駆け抜けてまいりました。

2023年には、グループ会社として初めて、親族外からの三代目代表取締役役に就任いたしました。

それから今日までの歩みを刻むことができたのも、ひとえにお客様、お取引先様、社員の皆様、そして家族の支えがあったからこそと、深く感謝申し上げます。

このたび社史を編纂するに至ったのは、私が入社する前の第一創業期・第二創業期の歩みを正しく後世に語り継ぐとともに、私たちが目指すべき「お客様へのお役立ち」の原点を明確にしたと考えたからです。

なぜ私たちがこの事業に心血を注ぐのか。その意義を問い直

すことで、積み上げてきた経験と技術をより広い分野、地域へと還元していく道標といたします。

私たちの使命は「ニッポンの工場を強くする。」ことです。

しかし、その志は国内にとどまりません。長期的には建物の用途や国境を超え、「セカイの建物を強くする。」というビジョンの実現も見据えております。

日本に限らず、地震リスクを抱える国々で暮らす人や産業を守るため、様々な建物を強くすることにも貢献いたします。

これからも「自走・自想・自創」の精神を胸に、皆さまの期待に応え、社会に貢献し続ける企業として挑戦を続けてまいります。

ヨシザワグループのあゆみ

建築裁判において、一般消費者（発注者）側の依頼に限定し、係争に関与する弁護士の実施

建築構造欠陥調査、建築の耐震診断調査業務を開始

第一創業

埼玉県草加市に
現会長実父、吉澤
浩二が「吉澤ハウス
工業」を埼玉県
草加市にて創業

1995年～1997年、阪神大震災発生後、約2年間に渡り、建物復旧のための構造支援に従事（1月）

第二創業

設計業務および現場監理業務を分社化し、現会長・吉澤宏泰が「有限会社ヨシザワ建築構造設計」を埼玉県越谷市せんげん台に設立（9月24日）

構造計算書偽造事件（11月）

特定建設業許可 取得（2月）

ベトナムハノイ事務所 ダナン市に移転。ベトナムダナン支店として組織変更

ベトナムハノイ市にベトナムハノイ事務所 開設

設立20周年の節目に、ロゴとコーポレートアイデンティティを刷新（8月）



グループ会社2社が本社事務所を移転。ガンコ建築株式会社は日本橋蛸殻町に、ヨシザワ想造建築株式会社は京都市中京区に移転

現体制スタート

吉澤宏泰（前・代表取締役）が取締役会長に就任し、米田圭介（前・専務取締役）が代表取締役役に就任

全国健康保険協会東京支部より、健康優良企業に認定され「銀の認定」を取得（6月27日）

社会人サッカーチーム「TRANK SHONAN」とクラブパートナー契約締結（7月）

埼玉りそな銀行 機関誌「埼玉りそな 経済情報」11月号 No.263にZOOMUP企業として特集を掲載（11月）

田植え体験イベントを開催、関連記事を「秋田魁新報」に掲載（6月）

1970 1974 1992 1995 1998 2001 2004 2005 2008 2009 2011 2013 2016 2017 2018 2019 2022 2023 2024 2025 2026

阪神・淡路大震災（1月）

埼玉県春日部市に、株式会社ヨシザワ建築設計事務所を設立

『亀裂 阪神震災が暴いた建築の構造欠陥』出版（11月15日）



「有限会社ヨシザワ建築構造設計」を組織変更し、「株式会社ヨシザワ建築構造設計」へ移行（5月）

本社を東京都中央区日本橋に移転（11月）

リーマンショック（9月15日）

構造設計一級建築士資格を取得。構造設計一級建築士事務所となる

新潟県中越地震（10月）

東日本大震災（3月）

京都市中京区河原町御池に京都支店開設（9月）

熊本地震（4月）

東京都中央区日本橋箱崎町にグループ会社 ガンコ建築株式会社を設立

ベトナムダナン支店を分社化。グループ会社 ベトナム現地法人 YDA VIETNAM CO., LTDを設立



北海道胆振東部地震（9月）

京都支店を分社化し、グループ会社 ヨシザワ想造建築株式会社を設立

能登半島地震（1月）

埼玉県越谷市にグループ会社 株式会社ヨシザワデザイン設備設計を設立

全国健康保険協会東京支部に「健康企業宣言 STEP1」を行い「宣言の証」を取得（6月8日）

本社オフィス リニューアル〈第1段階〉（8月）



社史を発刊（8月）



株式会社ヨシザワ建築構造設計
創業者

吉澤 浩二

異業種から自ら事業を立ち上げた創業者・吉澤浩二。

阪神・淡路大震災の復興支援を通じて培った構造への知見と、

人の命を守る建物をつくるという使命感が、

現在のヨシザワ建築構造設計のビジネスモデルの原点となった。

創業の経緯から震災復興での経験、

そして経営において大切にしてきた価値観について語る。

信頼を礎にゼロから築いた建設業の道 命を守る仕事へのこだわりと創業の原点

私は大学を卒業した後、出版社に就職しました。しかし就職以前から建築という仕事に強い興味を持っていたので、当時は特別な資格や専門的な知識はありませんでしたが、その思いから独立し、会社を設立する決意をしました。

創業当初は、まさにゼロからのスタートでした。建設会社に勤めて経験を積んだうえで独立したわけではなく、最初からすべてを自分一人で始めたため、当然ながら資金も人材もなく、厳しい状況でした。当初は協力会社に工事費を支払う資金的余裕がなかったため、お客様から協力業者へ直接支払いをしていただき、当社は管理費や設計費をいただくという方法で事業を継続していきました。そうした工夫を重ねながら少しずつ資金を蓄え、やがて請負として仕事ができるようになっていきました。ある程度仕事ができるようになってきた頃には、現在の会長である長男にも、学校が休みの土曜日や日曜日に手伝ってもらいながら仕事を進めていました。

とにかく目の前の仕事に全力で取り組むことを大切にし、ひいきにくださるお客様の仕事を一つひとつ丁寧に、そしてスピーディーに対応することで信頼を積み重ねてきました。昼は現場に出て働き、夜は見積もりや図面を作成するという生活でしたが、若かったこともあり、とにかく必死で仕事に取り組んでいた記憶があります。

その後、住宅や共同住宅、店舗、事務所などさまざまな建物に取り組んできましたが、中小企業として生き残っていくためにはどこかに特化する必要があると考え、工場建築を主軸にすることを決めました。もともと工場建築に強い関心がありましてし、工場は柱の少ない大空間をつくる必要があるため、構造設計の力を発揮できる分野でもあります。また住宅やマンションに比べて工期や工数の面でも特徴がありました。工場に特化することで専門性を高め、他社との差別化を図りながら、お客様により大きく貢献できると思ったのです。

現在の当社のビジネスモデルの原点となったのは、阪神・淡路大震災での経験です。私はそれ以前から新潟地震などの被災地を訪れ、建物がどのように壊れるのかを調査してきましたが、阪神・淡路大震災では特に多くの建物が被災していました。

現地では、「この建物はまだ住めますか」といった相談を数多く受けました。構造の観点から危険な建物については危険であると、はっきりお伝えし、補修すれば使える建物についてはその方法を説明するなど、被災された方々の立場に立って助言を行ってきました。当時は補修計画に関する確認申請の前例も少なく、行政の対応も十分ではありませんでしたが、それでも被災された方々の生活を守るために、構造の専門家としてできることを続けてきました。

2年間ほど技術指導のような形で復興支援に関わる

中で、特に強く感じたのは、本来であれば守られるべき基準が守られていない建物が存在していたという現実でした。建物は人の命を預かるものですから、最低限の基準を守らない建築は決してあってはならないことです。しかし、柱の中の鉄筋が不足しているなど、手抜き工事によって被害が拡大したケースもあり、大きな憤りを感じました。

こうした経験の中で培った知識やノウハウが、現在の「工場を稼働させながら建て替える」という当社のビジネスモデルにつながっています。壊れた建物を使いながら補強する技術や、建物を囲うようにして修復していく発想は、この復興支援の現場で生まれたものです。

経営において、常に大切にしてきたのは「信頼」です。商品であれば実物を見て判断していただくことができますが、設計の仕事はまだ形になっていない建物を図面で説明し、未来に対して信頼していただく仕事です。そのためには技術だけでなく、人として信頼されることが重要です。設計者や営業担当だけでなく、会社のトップ自らがお客様と向き合い、会社としての姿勢や考え方を理解していただくことが大切だと考えてきました。

人の命を預かる仕事に中途半端な気持ちで取り組むことは許されません。これからもお客様に信頼していただける仕事を続けていくことが何より重要であり、その思いを次世代にも引き継いでほしいと考えています。

PROFILE

1938

6 東京都千代田区神田 生まれ

1961

3 青山学院大学 卒業

1961

4 某出版社に入社

ダイニッカ株式会社にて
株式会社アイ・テック（鉄骨鋼材総合商社）との
取引所長として見識を深める

★建築基準法を考える会 代表理事

★一般社団法人日本建築学会、正会員

[著書] 『亀裂 阪神震災が暴いた建築の構造欠陥』
（成星出版）
『建物は人命を守るシェルターでなければならない』
（文芸社）
『からみあう糸 地方・中核病院 崩壊の記録』
（文芸社）



株式会社ヨシザワ建築構造設計
取締役会長

吉澤宏泰

「お客様第一」の姿勢と、阪神・淡路大震災での現地調査の経験が、ヨシザワ建築構造設計の事業の原点となった。
1998年設立、社員教育を軸とした組織づくりと、工場を稼働させながら建て替える独自のビジネスモデル、さらに分社化による迅速な意思決定体制を通じて成長を続けてきた。吉澤宏泰会長が、これまでの歩みと今後の展望について語る。

お客様第一の精神で築いた事業モデル

私は大学生の頃から、創業者である父の仕事を手伝っていました。父は営業から見積もり、図面作成に至るまで自ら手掛け、現場にも足を運び、朝から晩まで働くような人でした。工場や店舗などの現場は遠方にあることも多く、父はそうした場所にも足しげく通っていました。そうした父の背中を見てきたことで、「お客様を大切に、決して手を抜かず、一つひとつの仕事に真剣に向き合うこと」が、この仕事の基本であるということを実感し、学んできたのだと思います。

今でも強く印象に残っているのは、阪神・淡路大震災の後、父とともに被害を受けた建物を調査した経験です。現地では、倒壊した建物や大きく損傷した建物を前にしながら、「なぜ壊れてしまったのか」「構造上どこに問題があったのか」を確かめるように歩き回りました。父は正義感の強い人ですので、本来であれば基準通りに施工されていれば壊れないはずの建物が、手抜き工事などによって損壊している現実を目の当たりにし、強い憤りを感じていました。この経験は、私自身にとっても非常に大きな意味を持つものであり、現在の当社のビジネスモデルの原点にもなっています。

1998年にヨシザワ建築構造設計を設立した当時は、決して順風満帆なスタートではありませんでした。由あって負債を抱えた状態での創業であり、いわばマイナスからの出発でした。当時は建設業の免許を取得するための資本金も十分ではなかったため、基礎工事や電気工事、

大工工事などの専門業者への発注を、お客様から直接行っていたという変則的な形で仕事を進めざるを得ませんでした。それでも仕事を任せてくださるお客様がいたのは、父が長年にわたり誠実に仕事を続けてきたことで築いてきた信頼があったからだと思っています。

会社を成長させるうえで、特に重視してきたのが社員教育です。社長がトップダウンで引っ張る会社は、ある程度のところまでは成長しますが、それ以上の発展はなかなか望めません。社員一人ひとりが主体的に動き、自ら考えて仕事に取り組めるようになれば、会社として持続的に成長することはできないと考えています。

私は父のようなカリスマ型の経営者ではなかったもので、社員が自ら動ける組織をつくることを何よりも重視してきました。稲盛和夫氏や松下幸之助氏の経営手法を参考にしながら、多くの経営者の話を聞き、方向性は経営者が示すものの社員が成長すれば会社も成長するという考え方に強く共感し、社員が自ら価値を生み出せる会社をつくることを意識してきました。

会社を大きくすることそのものを目的にしてきたわけではありません。常にお客様のニーズに応え続けることを第一に考えてきた結果として、会社が成長してきたのだと思います。2005年の構造計算書偽造事件の際には構造分野の仕事が大きな影響を受けましたし、2008年のリーマンショックの時には、工場建築の

需要が急激に落ち込みました。そのような環境にありながらも、耐震診断・耐震補強という新たな商品を急いで整え、事業として展開したことで、会社は厳しい局面を乗り越えることができました。

当社の強みは、工場を稼働させながら建て替えを行うビジネスモデルと、意思決定を迅速に行うための分社化戦略にあります。2016年にガンコ建築株式会社、2019年にYDA VIETNAM CO., LTDとヨシザワ想造建築株式会社を設立した際には、事業部として組織を分けるのではなく、あえて会社として独立させる形を選びました。それぞれが独立した会社として意思決定できる体制にすることで、現場に近い判断を迅速に行えるようにするためです。

現在、建設業界は人手不足という大きな課題を抱えています。しかし私は、建設という仕事そのものがなくなることはないと考えています。建物には耐用年数があり、建て替えや改修の需要はこれからも必ず続きます。ただし、これまでの成功体験がそのまま通用する時代ではありません。若い世代には、「お客様を大切にする」という理念をぜひ受け継いでほしいと思っていますが、その実践の方法は時代に合わせて変えていく必要があります。創業から続く「お客様のニーズをしっかりと捉える」という精神をしっかりと守りながらも、新しい方法を模索していくことが、今後ますます重要になっていくと思います。

PROFILE

1988

- 3 芝浦工業大学工学部建築学科 卒業
- 4 飛鳥建設株式会社 入社

1998

- 9 有限会社ヨシザワ建築構造設計 設立
代表取締役就任

2016

- 10 ガンコ建築株式会社 設立

2019

- 1 YDA VIETNAM CO., LTD 設立
- 10 ヨシザワ想造建築株式会社 設立

2022

- 5 株式会社ヨシザワデザイン設備設計 設立
代表取締役就任

2023

- 8 株式会社ヨシザワ建築構造設計
取締役会長 就任